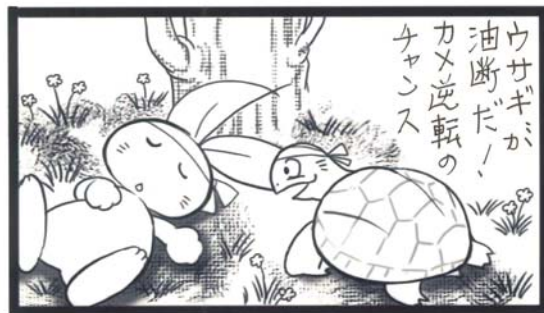
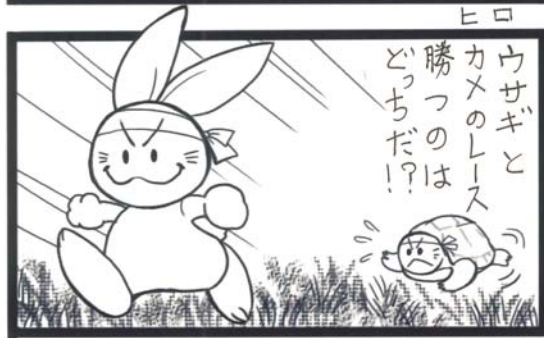


第44回 クサガメ

カコちもん ジョウくん かほくがたナルドレン



河北潟で自然観察会をするときに、子供たちに人気 No.1の生きものがカメです。河北潟では、カメと名が付くものとしては、イシガメ、クサガメ、アカミミガメ、カミツキガメが記録されていますが、イシガメはこの20年くらいは確認されておらず、河北潟では幻のカメとなっています。

現在、河北潟でよく確認されるのは、アカミミガメとクサガメです。アカミミガメは北米産のカメで、もともと河北潟にはいなかったものですが、現在は、河北潟で最も多く生息するカメとなってしまいました。日本では、1960年代頃から野外で繁殖するようになり、日本の侵略的外来種ワースト100にも選定されています。やや気の荒いカメで汚濁にも強く、在来の淡水カメ類や餌となるさまざまな水生動植物に影響を与えているとされています。

クサガメは、かつては日本古来のカメとされていましたが、最近になってももとは日本人にいなかったカメで、江戸時代以降に朝鮮半島や中国から持ち込まれたものが拡がった外来種であるとする研究結果が発表されています。私たちにとっては身近なカメであり、最近ではアカミミガメとの競争に負けて数が減っていることから、河北潟レッドデータブックでは、保全対象種として取り上げています。ニホンイシガメとの交雑も起こることから注意は必要ですが、身近な生きもののクサガメが身近なままであるように、クサガメの生息環境を守る取り組みとして、河北潟周辺では「生きもの元気米」の取り組みを進めています。

クサガメの特徴は、甲羅に3つの隆起（キール）があることです。また、アカミミガメに比べると甲羅が上下に長い楕円形をしています。顔の横に黄色や薄黄緑色の不規則な斑紋や斑点が入るのも特徴のひとつです。また、クサガメは漢字で書くと「臭亀」です。天敵に出会うと臭腺と呼ばれる器官から臭いにおいを出します。

カミツキガメは河北潟では最近になって見つかったカメです。北米産で特定外来生物にも指定されている種で、在来種への影響や凶暴性から問題があるとされる種です。千葉県印旛沼では、1987年にはじめて目撃されたとされ、2002年には繁殖が確認されています。2007年から駆除が始まっていますが、この10年間で16倍に増え、2015年には1万6千匹が生息すると推定されています。一旦定着するととてもやっかいな外来生物ですが、どうも河北潟に居着いてしまっているようです。まだ数は多くないので早急な対策が必要とされます。（文：高橋 久）